

若者の自殺リスクアルゴリズムの解明: 学校間および医療機関での検討

研究機関

[帝京大学](#)

研究代表者

[北川 裕子](#) 帝京大学, 医学部, 助教 (90816159)

研究期間 (年度)

2018-04-01 - 2022-03-31

キーワード

自殺リスク / 精神不調 / スクリーニング / 予測指標 / 学校 / RAMPS

研究実績の概要

本研究の目的は、自殺リスクの高い若者を特定するための実用的なリスク予測アルゴリズムを構築し、高リスクの対象への早期の適切な支援促進に貢献することである。具体的には、学校・医療機関の両面の多施設共同での研究遂行により次の2点を実現することである。1) 自殺企図および自殺に関連するリスクを予測するアルゴリズムの構築: 学校・医療現場から収集される多様な情報を活用し機械学習を用いて自殺リスクを有する若者の特徴・パターンを解明する。2) 潜在的に自殺リスクの高い若者と接する学校教員(養護教諭)や医療従事者のリスク発見促進とケアの意思決定を補助するツールの開発: データの収集システムは携帯端末およびクラウドを活用する。システムには国際的に評価されている自殺リスクに関する質問項目に加え日常的な事象に関する項目を搭載し、入力後に個人のリスクの程度が可視化されるシステムを構築する。また若者が精神不調を回答しやすい構造の工夫を進める。以上を達成するために、2019年度中に実施したことは次の通りである。

・新潟県教育庁からの要請で、県立高校22校に代表者が開発した「精神不調アセスメントツール(RAMPS)」を導入し、保健室での自殺リスクを含む精神不調スクリーニングを実施。学校でのリスク評価と事後対応(保護者・医療機関等との連携)に寄与した事例が複数報告された。この実施実績が新潟県に認められ、全県へのRAMPS導入が決定しており、2020年度は33校で実施、段階的に実施校を拡大していく。また、東京都内の高校2校、茨城県内の高校1校での導入要請があり実施準備を進めている。得られたデータをもとに予測指標の妥当性・信頼性を確認し、より予測精度の高いリスク評価指標の構築を目指し、データ解析を進めている。

現在までの達成度 (区分)

現在までの達成度 (区分)

2: おおむね順調に進展している

理由

2019年度の新潟県立高校22校での研究実績が認められ、今後は全県実施(高等学校全校および中等教育学校)での研究導入が決定した。これにより、既に得られたデータをもとに予測精度の確認を行うとともに、今後得られる大規模なデータを解析することで、実用性の高い自殺リスク予測アルゴリズムの解明を進めることができると考えられるため。また、複数の学校から自殺予防に寄与した事例が報告されたため。

今後の研究の推進方策

自殺リスク予測指標の構築に向けて、得られるデータの解析を中心に行い、論文執筆を進める。

新潟県ははじめ2020年度からは茨城、東京と実施学校が拡大された。大規模な事業となり、得られるデータを活用し、自殺リスクを予測する指標の構築を目指す。